

ソルスティス

Solstice

三次元迷宮の狂獣

はるか昔、まだ人々が魔法の力を信じ、その不思議な力によりすべてが成り立っていたころのこと。

魔法は〈怪我や病気の治療〉〈死者の蘇生〉などに役立つ防御型の「白魔術」と、〈呪殺〉〈魔物の調教〉などに力を発揮する攻撃型の「黒魔術」とに分類されていた。

果てしない戦乱が終わり、世果に平和が訪れた時、古代アルカディア王国の国王は平和を乱す危険のある「黒魔術」を追放する決意をした。

しかし、国王の決定を不満とする「黒魔術」の総領モルビスは自らの軍団を率いて、反乱を起こした。

再び戦乱の危機に瀕したアルカディア王国であったが、「白魔術」の開祖であるエルフ族の長老が、伝説の秘宝「デムノスの杖」の力でモルビスを打ち倒した。

ある日、旅の商人がかつてモルビスの居城であった「キャッスルロック」の近くで絶滅したはずの魔物に襲われるという事件が起きた。

魔導師モルビスは復活していたのだ。しかも百年前に。

この百年間、モルビスはアルカディア王国を滅ぼすために、究極の黒魔術である「ソルスティスの秘法」に取り組んでいた。

最後のいけにえとして、アルカディア王国のエレノア姫を悪魔に捧げれば、「ソルスティスの秘法」は完成する。

モルビスは手下の魔族を使い、エレノアを誘拐するとともに、「デムノスの杖」を盗み出した。

これでもう、誰も自分を打ち負かすことはできない。モルビスは自らの勝利を確信した。エルフ族の血を引く白の魔導師シャグックスはエレノア姫を助け出すために「キャッスルロック」へと向かった。

古文書に記された予言を信じて…

古文書の予言

闇が大地を覆いし時

心の闇もまた人知れず交差する…

邪悪な悪魔の手のひらで

いにしえの秘法が蘇えるであろう

魔城の壁に隠された謎に

かすかな光の希望ありき

エルフの力を秘めたる

デムノスの杖のかげらが…

百年に一度の冬至の宵

赤い満月の天高くのぼる頃

呪文の封印が解かれる

そして

いにしえの伝説もまた蘇える…

アルカディア古文書「エルフの書」より抜粋

